

子育て支援・春先除雪の拡大など実現

23日の臨時市議会報告です。提案された議案は、一般会計補正予算、下水道事業会計補正予算、ガス事業会計の補正予算の3つでした。

このうち一般会計補正予算には、①出産・子育て応援交付金を活用した妊娠・出産・育児関連用品の購入や子育て支援サービスの利用等に対する経済的支援（妊娠届出時に5万円、出生届出後に新生児1人につき5万円を支給）、②春先の育苗用地や耕作道の消雪作業を3月も行うことができるように、緊急消雪促進対策事業補助金の交付対象を判断する基準日を、現行の

4月1日に加え、3月15日にも設定し、市独自の支援を行う経費、③ふるさと納税による寄附金の見込み増に合わせ、上越市ふるさと上越応援基金積立金と返礼品代等の追加、④マイナンバーカードの交付申請期限の延長に伴い、カードの取得等に対応する窓口体制を継続するための経費などが盛り込まれました。

総括質疑には日本共産党議員団から上野市議が立ち、「出産・子育て応援事業の『子育てプロジェクト』の各事業との関係や位置付け、市として上乗せ支援をどうか」「市独自に取り込む3月中の緊急消雪促進対策事業は関係農業者のこれまでの願いに十分対応できる施策になるのか。また、新たな基準日を3月15日とした経緯、県への支援拡充の働きかけをしたか」などと市長に訊きました。

「出産・子育て応援事業」の実施について市長は、「国の趣旨と本市の『子育てプロジェクト』の方向性を照らし合わせ、『伴走型相談事業』を『人的支援』に、また『出産・子育て応援ギフト』を『経済的支援』に位置付け、健康子育て部を中心に事業を推進する。市による上乗せ支援は考えていないが、今後も『子育てプロジェクト』の中で、様々な面から支援の方法を検討していく」と答えました。

春先除雪について市長は、「県に対して、令和3年10月から制度の見直しを要望しているが、制度化に至っていないので、この度、3月中の消雪作業を支援する必要があると判断し、市独自事業として制度化することにした。制度の設計に当たっては、昨年3月に



【ハナキリン】トウダイグサ科の観葉植物。マダガスカル原産。市内のある喫茶店で見かけました。一見してサボテン風の植物です。漢字で「花麒麟」と書きます。花期は春から秋まで。冬でも暖かい室内に置けば開花します。写真のハナキリンは白い花ですが、花の縁はピンク色となっています。花言葉は、「逆境に耐える」「冷たくしないで」など。

消雪作業を実施した集落等への実態調査を行った上で、『3月15日』を基準日として設定した。地域からの要望に一定程度お応えできているものと考ええる。引き続き県に対しては、営業現場の実態を伝えることも、基準日の前倒し等について要望していく」と答えました。

この春先除雪については、農政建設常任委員会でも、

「恒久的な制度にならないのか」などといった質問が出て、「要綱を作成し、恒久化していく」という答弁がされました。また、番外でしたが、私も「今回の取組は大いに評価できるものだ。そのうえで、(県の)基準日の前倒しとともに、(10割を目指しつつ)補助率を7割、8割と引き上げるよう県に働きかけてほしい」と訴えました。

空農林水産部長は県への働きかけを約束しました。今後の動きに注目していきます。

エッセイ集



初孫誕生

橋爪法一

今月30日に、私の9冊目のエッセイ集、『初孫誕生』を出版します。今回もアマゾンを使った自己出版という形をとります。注文に応じて印刷することになりますが、今回も1冊1595円です。

今回のエッセイ集は2015年6月から翌年の12月までに書いたものをまとめたもの。「衝撃のコメント」「ヤマボウシ」「初孫誕生」「黄色い牡丹」など身近な動植物のこと、家族のこと、地域の出来事等60編を収めています。

ご希望の方はアマゾンに注文するか私にご連絡ください。市内は配達もします。

懐かしい思い出がよみがえります

知活舎

はしづめ法一の活動レポート

No.2095 2023.1.29

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七四二回

突然の声掛け

びっくりました。夜中の一時四〇分頃でした。突然、「とちゃ、おれ、トイレ行ってってくれ」という母の声が聞こえたのです。

急に呼びかけられたもんですから、私は目を覚まし、周囲を見ました。母がいたベッドはありません。母の姿も見えませんでした。でも、間違いなく母の声がしたのです。その時、私は夢を見ていた記憶はまったくなかったため、不思議なことが起きるものだと思います。

母は昨年の一〇月に亡くなっていきますが、母がポータブルトイレではなく、わが家のトイレまで車イスに乗って行ったのは、それよりも数か月前までのことです。

突然の母の声で起こされた私は、再び布団にもぐり、目をつむったのですが、それから明け方までずっと、眠れない状態が続きました。

思い起こすと、母が夜中に起きて自分の部屋から七、八分離れたトイレに行った時間帯は午前〇時から二時頃までがほとんどでした。私のスマホには、「三日、午前一時十七分。しつこ。ベッドにはいったところで、また体を起こし、『いま、どこにきたがかな』『うちだよ』『ほっか』」などといった記録がいくつも残っています。ですから、夜中の母の声掛けが強く脳裏に焼き付いているのでしつこね。

母の突然の声掛けとほぼ同じ時期から私の左腕が微妙におかしくなってきたままです。一定の高さより上に上げようとする時、肩や腕が痛くなるのです。

この腕の不調で思い出したのは母の肩と腕です。母はいまから四一年前の一月、二階の屋根から雪が全くなかったわが家の前に滑り落ち、大けがをしました。市内のある整形外科に五か月ほど入院したのですが、こちらの都合で、リハビリを完全に終わらせないで退院させてしまいました。そ

のため、片方の腕がよく上がらない状態が固定化してしまいました。

今回の私の腕の不調の原因については、最初、新型コロナワクチンの五回目接種の影響かと思ったのですが、どうもそれだけではないような気がしてきました。ひよつとすると、腕の動きを左右する神経の機能がおかしくなっているのかも知れません。どうあれ、腕や肩の具合まで母と同じような感じになってきたのは困りました。

もう一つ、これは不思議でもなんでもなく単なる偶然的出来事ですが、私の新しいエッセイ集をつくる過程で描いたイラストで面白いことがおきました。

このイラストで描いた母の顔がじつによく似ていたのです。これには、描いた本人である私自身が驚きました。母の特徴といえば、細い目とやさしい笑顔です。でもイラストは、目も口も描いてなく、ただ、横顔の輪郭を線で描いただけなのに、写真以上に母の雰囲気が出ていたのです。ひよつとすれば、何らかの影響で母の想いがいつときイラストに乗り移ったのではないかとまで思いました。

イラストは、母がひ孫を抱いている姿を描いたものです。七年前の一〇月、私の次男に初めて子どもが誕生しました。生まれ一か月半ほど経って、初めてひ孫を抱いた母は、「あらまー、いい子だない。こりゃ、重たい」と言って大喜びしていました。母にとっては自分の三輪自転車のカゴに載せて育てた最愛の孫の子もだということもあって、特別の思いがあったのだと思います。

母が亡くなって百日以上が経過しました。「突然の声掛け」のように、母がまだそばにいて一緒に暮らしているという感覚はなかなか消えませんが、この調子だと、次回、「とちゃ、なんか、うんめもんねが」という声を聞けそうです。

委員会室のマイクなどの音響設備を更新

市議会の第1委員会室のマイクなどの音響設備がこのほど更新されました。

これまでの音響設備は録音がよくできない、インターネット中継をしても音が時々切れてしまうなどの不具合が出ていて、市民から苦情が出ていました。

音響設備更新後の初の使用となったのは、23日の臨時議会の委員会審査でした。インターネット



中継をみていた市民からは、「今度は発言がよく聞こえる」などの声が寄せられました。

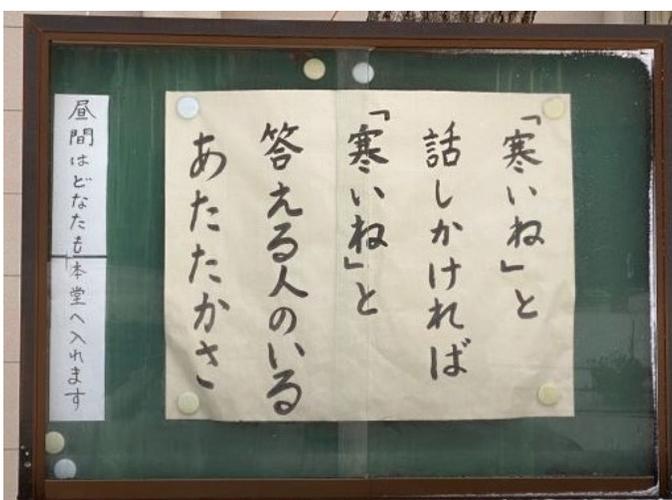
ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月18日(水)	1月25日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.053	0.043
新井消防署	0.053	0.057
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.040	0.040
名立分遣所	0.060	0.050
高士分遣所	0.053	0.047

俵万智の短歌も登場



柿崎区の浄土真宗本願寺派寺院、浄善寺の掲示板が替わりました。

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ。現代歌人の第一人者といわれる俵万智の『サラダ記念日』所収の歌です。この掲示には、猛吹雪の日に出合いました。